田川議員（公明党）

平成 26 年 12 月 11 日
教 育 長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）「頑張れ」と言って学習させようという風潮について

ＯＥＣＤが進めているＰＩＳＡと呼ばれる国際的な学習到達度に関する調査によると，学力の差について，欧米の生徒は才能の差だと言い，中国，韓国の生徒は，個々の努力によると答えるそうである。

やる気と責任感を奨励して，「頑張れ」と言って学習させようという風潮をどのように思うのか，教育長に伺う。

（答）

生徒が意欲的に学習に取り組むためには，ただ頑張れと言うだけではなく，生徒が主体的に学ぼうとする態度を育成することが重要だと考えております。

このためには，教師は，具体的な学習到達目標を設定し，個々の生徒がどれくらい達成できているのかという状況を的確に把握すると同時に，生徒に具体的な学習到達目標を示しながら，生徒自らがゴールを意識して一歩一歩着実に学習を続けていくよう指導する必要がございます。

現在，学校では，授業づくりに取り組んでおり，授業の導入に「めあて」を具体的に示し，生徒に見通しを持たせ，学習を行わせております。

また，授業の終わりには，自分の学習を振り返り「目標に到達できた」という達成感，充実感を味わわせるとともに，さらに，より自分に合った学習方法を工夫させるなどにより，主体的な学習を促すよう取り組んでおります。

教育委員会といたしましては，今後も，このような主体的な学びを促す授業づくりを推進する取組を進めてまいりたいと考えております。